

地域とつながる、地域とつなげる
(生涯学習指導者研修事業：
地域連携・施設間連携を考える)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 進藤, 敬 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00008436

事例報告

地域とつながる、地域とつなげる

進藤 敬（焼津市和田公民館館長）

皆さま、はじめまして。焼津市の和田公民館の進藤敬と申します。よろしくお願いします。本日は、僭越ながら当館の事例を紹介させていただきます。私は本年度より当館の館長になりましたが、昨年度までは社会教育課の事務局にいました。昨年度までは事務局の立場で間接的に公民館と関わっておりましたが、現在は、公民館利用者や自治会の方と直接接しながら、いろいろ発見することが多い日々を送っています。午前中に服部所長からお話がありましたが、当館でも今後の公民館の大きな役割として、地域連携や施設間の連携は重要な命題であると考え取り組んでいます。しかし、正直なところ、それほど特徴的な事例があるとは言えません。それでも、本日は何か皆さまの参考になるところがあれば幸いに思います。本日は、研修テーマが「地域連携、組織間連携を考える」ということでしたので、事例発表のテーマを、「地域とつながる、地域とつなげる」としました。

焼津市には「やいちゃん」というゆるキャラがあります（図1）。全体のフォルム（forme）は、焼津港が水揚げ日本一のカツオです。手に持っているトマトは、市内の大井川地区が名産地です。着ている服が魚河岸シャツと言いまして、焼津市民の民族衣装といわれているものです。昨年行われた「ご当地ゆるキャラランキング」では、全1,245体中、356位ということで、少し微妙な順位で終わっています。

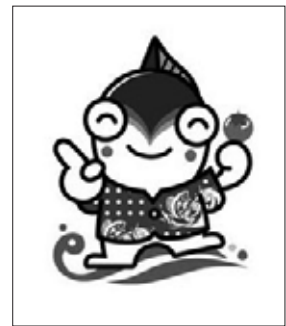


図1 焼津市のイメージキャラクター「やいちゃん」

■焼津市と和田公民館について

焼津市は、遠洋漁業の基地として水産業や水産加工業を中心に発展してきた都市です。近年は静岡市などに通勤する方が多くなって、ベッドタウン化が進んでいますが、現在も水産加工業に携わる方が多くいます。焼津市は県の総面積の0.9%と、大変狭い地域です。言い方を変えると、市内のどこからでも中心市街地まで比較的近い地域ということになります。公民館は、中学校区ごとに九つあります。その中で、和田公民館は海に近い方にありまして、松林に囲まれた海岸線とナシ畑が多く残る、のどかな地区です。

図2は和田公民館です。ご覧のとおり建物は既に築30年以上経過してしまっていて、建て替えの計画もありますが、現在は老朽化した建物を何とかだましだまし使っている状況です。職員は、基本的に館長の私と公民館主事、コミュニティ担当職員の3名です。多分、コミュニティ担当職員というのは耳慣れない名称かと思いますが、自治会などで構成されるコミュニティ組織の事業を実施している職員です。



図2 焼津市和田公民館

和田公民館の対象地区は、和田中学校の校区となります。この区域は、昭和30年に市へ編入する前の和田村という村がベースになっています。二つの自治会で構成されていて、地区内には幼稚園、保育園のほか、小学校、中学校が各1校あります。

地区内の特徴的な施設に、ディスカバリーパーク焼津天文科学館があります。また、水産加工の工場の集積地であることから、水産加工団地があります。この団地には外国人の労働者が数多くおりまして、そ

の方たちがそのまま地区内に居住するケースも多くなっています。

和田浜海岸にはヤシの木が生えたりしていて少しおしゃれな感じになっていますが、とてものだかな地区です。和田地区は大半が市街化調整区域になっていて、東日本大震災以降、沿岸地域から内陸地へ転居される方がかなりいて、地区内人口は減少傾向にあります。また、対象人口、対象世帯とも9公民館の中で最も少ない地域です。

■公民館運営と活動

続きまして、地域連携を踏まえた公民館の主要運営について説明させていただきます。主に福祉事業を行う「和田地区地域福祉推進委員会」、地域全般を対象とした「和田地区地域づくり推進会」という二つの大きなコミュニティ組織のほか、地区内の小学校、中学校を間接的に支援する「和田学区教育後援会」、地区内の農業者の支援組織である「和田地区地域資源保全組合」の事務局や事務所を、公民館のコミュニティ職員が担当しています。あと、図3



図3 公民館に係わる各種団体

に書いてあるような団体がそれぞれ公民館の活動に関与しているのですが、特に自治会と教育機関が、公民館の実施する事業と大変結び付きが強い団体になります。

焼津市内の和田地区以外の公民館も、地域福祉と地域づくりのコミュニティ組織を有しています。コミュニティ組織は、昭和46年に市内の東益津公民館というところが当時の自治省のモデルコミュニティ地区に指定されて、公民館と共同してコミュニティ活動を展開したのがきっかけで、他の地区にも導入されました。地域振興、文化教養、青少年健全育成、福祉体育保健などの分野について、コミュニティ団体からの負担金で運営しています。

■活動事例

次に、活動の事例を少しご紹介します。まず、「公民館まつり」というお祭りを昨年（平成25年）10月に開催しました。これは公民館の講座生の発表の場であるとともに、地域の諸団体が地域の方に対して発表する場となっています。図4の左上の写真は、アトラクションということで出ていただいた保育園児のダンス、その右側が中学校の吹奏楽部の演奏です。中学生は、左下の写真のように、ボランティアとしても参加しています。無料のお餅の配布もしていますが、右下写真に



図4 「公民館まつり」の様子

あるように、つき手が年配の方が多いものですから、消防団がお手伝いしています。「公民館まつり」を実施して感じることは、打ち合わせや準備の段階からコミュニティ組織を中心に多くの地域団体に関わることで、地域内の人的な交流が図られる機会になっているということです。

また、地域交流事業の一つとして、公民館主催事業を一般に開放しています。昨年度（平成24年度）は、高齢者学級と女性講座の1回の学級をコンサートにして、一般開放しています（図5、図6）。



図5 地域交流事業「パンフルート&ピアノコンサート」

この二つのケースでは、コミュニティ組織が予算の負担と周知・広報の役割を担っています。コミュニティ組織は、市の予算とは別に予算を持っています。そこと連携を図るに当たっては、事業計画や予算立案の時点で、可能な限りのすり合わせが必要ではないかと感じています。

それから、地域交流事業の一つの事例として、どこの地域でもやっているかと思いますが、昨年（平成25年）は「歩け歩け大会」を、近隣のスーパーに設置されている「津波避難タワー」を経由して実施しました（図7）。こちらも先ほどのコミュニティ組織の主催で実施したもので、防災についての意識啓発も大事だという観点から、「津波避難タワー」を加えての実施としています。図8のAEDの講習会は、近隣の公園にAEDが設置されたという自治会からのお話がありましたので、自治会の方に呼び掛けて実施したものです。

また、今日の交流の事例とは違いますが、年末にこの地域の住民の方が、竹とんぼを200個作ったということで公民館に持ち込まれたので、小学校にお話をし、小学校の1、2年生を対象に、竹とんぼの寄贈と飛ばし方の実演をしました。こういった形で、コミュニティ組織によって市の施策を地域行事に生かすこと、また、地域の課題を拾い出すことが、スムーズに行われていると感じています。

■他館との連携

次に、他館との連携です。図9は、お隣の港公民館と共同で実施した「親子フィッシングスクール」です。港公民館と和田公民館は海岸線でつながっていて、釣りのポイントが大変多くあるのですが、意外と釣りをしたことがないという地域の子どもたちが結構いるという話もあったものですから、港公民館の館長が大変な釣り好きということもあって、一緒に実施しました。「うみえ〜焼津」という物産施設の横の港の防波堤で釣って、コノシロ、ボラ、ヒイラギ（地域の名称はジンダ）が結構釣れました。

これは夏に実施したのですが、秋には2回目ということで浜で投げ釣りを実施しました。このときは、投げ釣りは結構難しいものですから、静岡県フィッシングインストラクター協会というNPOの方にご協力いただいて、投げ釣りの実践から指導を受けています。結構大きなキスを釣った子もいました。本当は釣りの後に環境美化活動ということでゴミ拾いを予定していたのですが、雨が降って実施できませんでした。先ほどの写真からも分かるように、両方とも雨が降ってしまって、この後、どちらの館長が雨男だと話題になっていましたが、来年（平成26年）もまたやりましょうということになっています。

この活動で感じたことは、釣りのように頭数が必要で、スケールメリット（scale merit）で経費節減ができるものについては、合同でやることも大変有効だということです。

連携とはまた違うのですが、図10は公民館の方で長くやっている「子ども将棋教室」と「子どものお料理教室」（図11）の写真です。午前中のお話にもありましたが、やはり次の世代の地域活動の担い手で



図6 地域交流事業「音楽&サックスコンサート」



図7 地域交流事業「歩け歩け大会」（津波避難タワーから）



図8 地域交流事業「AED講習会」



図9 他館との協力事業「親子フィッシングスクール」



図10 自主講座「子ども将棋教室」

ある子どもたちに、まず地域に愛着を持ってもらうことが必要だと思っていますので、この活動がその一助になればいいなと感じています。

■まとめ

最後に、簡単にまとめてみました（図12）。地域には、防災対策、高齢者の増加への対応、和田地区の特徴として外国人在住者のゴミ出しの問題などがあります。また、水産加工団地にカラスがかなり来て、地元で困っているという話もあります。こうした地域におけるさまざまな課題に対しては、基本的には市役所や町役場などの自治体を中心になって対応していく必要があるかと思いますが、個人的な意見として、まず大事なことは、その課題をできるだけたくさん、かつ、迅速に拾い上げる仕組みが必要ではないかと感じています。それには、先ほどお話ししたコミュニティ組織が有効なのではないかと思っています。ただ、実際のところ、決して十分には生かし切れているとは思っていません。まだまだやれるのではないかと感じています。

今後は、地域の課題を的確に拾い上げるための組織や、意識の変革が必要だろうと思っています。ただ、そのベースには地域を愛する心が必要で、それが全ての基本になるのではないかと感じていますので、まず、自分も含めて楽しんで活動するという気持ちを忘れないようにしたいと思っています。

以上で説明を終了させていただきます。つたない説明でお聞き苦しい点もあったかと思いますが、ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

石川（司会）——せっかくの機会ですので、質疑応答に入らせていただきます。質問のある方は挙手をお願いします。

質問——静岡市の長田生涯学習センターの指定管理者である、財団法人静岡市文化振興財団の鈴木と申します。図12のまとめの表ですが、公民館とコミュニティ組織との関係は、コミュニティ組織が公民館の中に常駐しているというか、コミュニティ担当職員の方もそちらに雇われているという理解でよろしいのでしょうか。

あと、公民館と地域の直接連携という矢印はないのかなと。三角形の一辺なので、これにつながった方が早いのではないかと思いますので、そこを教えてください。

進藤——まず、コミュニティ組織の体制ですが、当初、コミュニティ組織の事務局を公民館に置くという形になったときには、市の方でコミュニティ組織に補助金という形で出して、そちらの方が人を雇用していました。ただ、人は公民館の職員と一緒に、公民館の事務室のフロアにいるという形だったのですが、5年ほど前に補助金の見直しがあって、現在はコミュニティ組織の職員は、市が直接雇用する形になっています。職員自身は公民館の事務所にいて、館長と公民館主事とコミュニティ職員の3人が机を並べている形になります。当初はどうしても、意識の問題もあるかと思いますが、コミュニティ職員はコミュニティの仕事だけやるとか、公民館主事はコミュニティの方の活動には口を出さないという雰囲気もありました



図11 「子どもお菓子天国」



図12 地域課題を解決するために

が、お互いに協働することで、より効果的な活動ができるということで、今はなるべく協力してやろうという雰囲気というか、形になってきています。

二つ目のご質問で、公民館と地域の直接連携という線が入っていないのですが、実際にはその形が早いと思うし、その形も実際の活動としてはあるかと思います。ただ、このコミュニティ組織には、和田地区の場合は二つの自治会の会長さんが役員として入っていて、それ以外の組織の役員も入っているということで、いったんそこを経由するような形を取ることが、もっと膨らみがあるといえますか、地域の活動に、より直接的に結び付けるような活動ができているという部分もあります。ですから、どちらがいいかは分からないのですが、両方の線があると一番いいのではないかと感じています。

石川——時間がもう来てしまったのですが、他にもしいらっしゃれば、あと1人ぐらいは。

質問——富士市の浮島まちづくりセンターの後藤と申します。地域の問題を的確に拾い上げる、そして意識改革が必要ということだったのですが、具体的な例、本音の部分を教えてください。

進藤——地域の課題には、実際にはそれぞれの自治会の活動の中で対応している部分もかなりあると思います。先ほど少しお話しした地域福祉のコミュニティ組織の場合には、ミニデイサービスをご自分でやりたりという活動実績もあるのですが、地域の課題を的確にというのは、実際のところ自治会の役員さんとの普段の何の気のない話の中で拾い出すことが結構多いかと、実際に公民館にいて感じています。

地域や個人はいろいろな問題を皆さん抱えていらっしゃると思いますが、やはり行政というか、公民館としては、その中の喫緊に取り組まねばならない課題を拾い出す必要があると感じていまして、正直なところ、先ほどの地域づくりや地域福祉も、拾い出しの仕組みとしては、まだ確立していないのではないかと感じています。どちらかというと、説明の中ではしなかったのですが、親睦会的な部分が内容としては多いということです。それが全く無駄だとは思いませんが、もう少し実生活に結び付いたような部分が今後は必要になってくる、その部分についてはまだ十分ではないと感じています。